

販 売 管 理

石 渡 德 彌
著

丸善株式会社

販 売 管 理

石 渡 德 彌
著

丸善株式会社

著者の略歴

現職 早稲田大学理工学部教授 工学博士
昭和 30 年 早稲田大学理工学部工業経営学科卒業

販 売 管 理

¥ 2,700

昭 和 54 年 1 月 20 日 発 行

© 1979

著 作 者 石 渡 德 翁

發 行 者 飯 泉 新 吾

發 行 所 丸 善 株 式 会 社

郵便番号 103 東京都中央区日本橋二丁目 3 番 10 号

印刷 晓印刷株式会社・製本 株式会社 星共社

3050-2360-7924

序 文

本書は、主としてメーカー（生産企業体）サイドから眺めた販売管理の諸活動に関して、定量化の問題に重点を置きながら論述したものである。

販売管理の範疇については、戦略問題を含めたマーケティングとはほぼ同意語の立場をとる考え方と、販売活動の中とくに統制業務を中心を置いた立場をとする考え方とがあるが、本書においては前者の立場に立ってその内容を開展している。すなわち、本書では販売に関する PRODUCT, PLACE, PROMOTION, PRICE の四つの言葉に関連のあるすべての諸活動をその対象として取扱っている。

本書の構成は二つの編より成立っているが、その中第Ⅰ編では販売管理の全般的な大要について説明し、また第Ⅱ編ではこれらマーケティング活動のモデル化について主要な対象を取り上げて言及している。その内容に関しては、

- ・ 全般的に商品という言葉を使わずに製品で統一するなどメーカー サイドの立場に立っていること。
 - ・ モデル化の問題に重点を置き、第Ⅱ編に多くの紙面を割いていること。
- など経営工学の立場を考慮しながら、特徴づけている。

マーケティングは、その複雑さから経営管理の諸分野の中で最も遅れてモデル化が検討された分野であるが、最近では、

- ・ マーケティング活動に対する支出の割合が増大してきた。
- ・ 新しい社会環境に対して新しいテクニックの開発が望まれている。
- ・ 情報の提供、計算の軽減などに役立つコンピュータが発達してきた。

ii 序 文

などの理由により、急速にそのモデル化が研究されるようになった。本書でも、上述のように第Ⅱ編においてこのマーケティング活動のモデル化の問題を取り上げているが、言及にあたっては、

- 一応、マーケティング活動の全般を対象として取扱った。
- 各テーマにおけるモデルとしては特筆すべきものを中心に選択した。
- 前段ではマーケティングミックスや他の分野と相互関係にあるモデルとしてのマクロモデルを、後段では個々の諸戦略に対するモデルとしてのミクロモデルを取上げた。
- 全体としてはメーカーに対して利用者側をユーザーで統一しているが、
15 市場行動モデルにおいては消費者行動理論の慣例に従って消費者なる用語を用いた。

などに留意しながら展開している。

読者におかれでは、以上のような著者の意図をよくご理解頂き、本書を有効に活用されることを改めてお願い申し上げる次第である。

最後に、当研究室・博士課程の河野邦彦、石川弘道、足立久夫の諸君には、第Ⅱ編のモデル化に関する文献調査をはじめ多大の御協力を頂いたことに対して心から感謝の意を表したい。

昭和 53 年 10 月

石 渡 德 弘

目 次

I 販 売 管 理

1 概 説	3
1・1 販売管理の範疇	3
1・2 マーケティング活動の変遷	4
1・2・1 経営管理手法（大要）の動向	4
1・2・2 マーケティング手法の推移	6
1・3 マーケティングシステム	7
2 販 売 計 画	11
2・1 経営計画における位置付け	11
2・2 販売計画の設定	13
3 市 場 調 査	15
3・1 市場調査の体系	15
3・2 市 場 分 析	17
3・2・1 動的分析：予測モデル	17
3・2・2 静的分析：横断面分析	18
3・3 実 態 調 査	22

iv 目 次

3・3・1 実査の計画	22
3・3・2 サンプリング：標本抽出	24
3・3・3 調査の設計	26
3・3・4 データの処理	29
3・3・5 市場実験	32
3・3・6 量的調査：積上げ方式	35
4 流通機構	37
4・1 流通システム	37
4・1・1 流通活動の発展	37
4・1・2 流通活動の体系	38
4・1・3 マーケティングチャネル	39
4・1・4 卸売業の役割	40
4・2 店舗	41
4・2・1 店舗の形態	41
4・2・2 ユーザーの店舗選択	43
4・3 ディーラーヘルプス	44
4・3・1 ディーラーヘルプスとは	44
4・3・2 販売の系列化	44
4・4 商圏	45
4・4・1 商圏とは	45
4・4・2 商圏の定量化	45
4・4・3 立地戦略	46
4・4・4 わが国各都市の位置付け	47
4・5 市場細分化	48
4・5・1 最近の消費者行動	48
4・5・2 市場細分化とは	48
4・5・3 ユーザーサイドの細分化	49
4・5・4 製品機能の分類	50

目 次 ▶

5 流 通 機 能	51
5・1 物 流 シ ス テ ム	51
5・1・1 物 流 と は	51
5・1・2 流通のトータルシステム	52
5・1・3 物流チャネル	53
5・2 物 流 の 個 別 シ ス テ ム	54
5・2・1 受 注 シ ス テ ム	54
5・2・2 仕 入 シ ス テ ム	55
5・2・3 在 庫 シ ス テ ム	56
5・2・4 配 送 シ ス テ ム	57
5・3 流通シス テ ム の コンピュータ化	58
5・3・1 情 報 处 理 シ ス テ ム	58
5・3・2 コンピュータの導入	59
5・3・3 POS シス テ ム	60
5・3・4 シス テ ム 化 の 評 価	60
6 製 品 計 画	62
6・1 研 究 開 発	62
6・1・1 研究開発の必要性	62
6・1・2 技 術 予 測	63
6・1・3 創 造 性 の 問 題	64
6・1・4 研究開発の評価	65
6・1・5 科 学 技 術 の 未 来 像	66
6・2 新 製 品 計 画	68
6・2・1 製品のライフサイクル	68
6・2・2 新製品計画のプロセス	70
6・3 マーチャンダイジング	72
6・3・1 マーチャンダイジングとは	72

vi 目 次

6・3・2 パッケージング	72
7 プロモーション	74
7・1 販売促進活動	74
7・1・1 プロモーションの範疇	74
7・1・2 コンシューマリズムとプロモーション	74
7・1・3 セールスプロモーション	75
7・2 人的販売活動	75
7・2・1 販売活動の現状	75
7・2・2 得意先管理	76
7・2・3 セールスマネジメント	77
7・2・4 販売報酬	78
8 広告活動	79
8・1 広告の戦略	79
8・1・1 マスコミュニケーションと広告	79
8・1・2 広告とイメージ論	80
8・1・3 広告計画	80
8・2 広告の媒体	82
8・2・1 広告媒体の種類	82
8・2・2 放送媒体による広告	83
8・2・3 印刷媒体による広告	83
8・2・4 その他の媒体による広告	84
8・2・5 媒体の選択	85
8・3 広告の効果測定	86
8・4 パブリシティ：広報活動	87
9 価格政策	88

9・1 価格の決定	88
9・1・1 価格政策の問題点	88
9・1・2 価格の決定方式	89
9・2 取引条件	89
9・2・1 取引条件の範疇	89
9・2・2 販売契約に関連するもの	90
9・2・3 価格に関連するもの	90
9・2・4 取引条件の適正化	91
9・3 物価指數	91
9・3・1 指数とは	91
9・3・2 物価指數の求め方	92
10 マーケティングコスト	94
10・1 営業コスト	94
10・1・1 マーケティングコストの構成	94
10・1・2 広告費	96
10・1・3 物流費	97
10・2 コストの分析	97

II マーケティング活動のモデル化

11 マーケティングモデル	101
11・1 序説	101
11・2 モデル化	102
11・2・1 モデル化の問題点	102
11・2・2 モデル作成のアプローチ	103
11・3 モデルの分類	103
11・3・1 目的による分類	103

viii 目 次

11・3・2 手法による分類	104
11・3・3 対象による分類	105
12 予測モデル.....	109
12・1 経済時系列モデル	109
12・1・1 経済時系列モデルの構造	109
12・1・2 傾向変動モデル	110
12・1・3 季節変動モデル	112
12・1・4 循環変動モデル	113
12・1・5 指数平滑モデル	115
12・2 回帰モデル（含、純粹連鎖モデル）.....	116
12・2・1 回帰モデルの構造	116
12・2・2 タイムラグモデル	122
12・3 計量モデル	124
12・3・1 計量モデルの構造	124
12・3・2 逐次モデル	127
12・3・3 相互依存モデル	128
12・4 予測モデルの事例	132
12・4・1 耐久財需要モデル：Stone & Rowe のモデル.....	132
12・4・2 耐久消費財需要モデル：Bass のモデル.....	135
12・4・3 一般消費財需要モデル：Houthakker & Taylor のモデル	138
13 企業モデル.....	141
13・1 連立方程式型モデル	141
13・1・1 序説	141
13・1・2 モデルの構築	142
13・1・3 推定方法	142
13・1・4 予測とシミュレーション	143

目 次 ix

13・1・5	事例	145
13・2	インダストリアルダイナミックス (ID) 型モデル	145
13・2・1	序説	145
13・2・2	モデルの構築	146
13・2・3	ダイナモ (DYNAMO) 方程式	146
13・2・4	事例	149
13・3	市場行動的モデル : Amstutz のモデル	149
13・4	行動科学的モデル : Bonini のモデル	149
14	調査の効率化モデル	153
14・1	マーケティング情報システム (MIS) モデル : Urban のモデル	153
14・2	面接調査モデル : Mayer のモデル	157
14・3	市場実験のモデル	159
15	市場行動モデル	161
15・1	普及モデル	161
15・1・1	序説	161
15・1・2	S字型モデル : Tarde, 他のモデル	161
15・1・3	凹型モデル : Fourt & Woodlock のモデル	162
15・1・4	伝染型モデル : Bass のモデル	164
15・2	採用モデル	164
15・2・1	序説	164
15・2・2	新製品採用過程概念モデル : Robertson のモデル	165
15・2・3	DEMON モデル : Charnes, 他のモデル	166
15・2・4	SPRINTER MOD III モデル : Urban のモデル	167
15・2・5	採用過程の移動モデル : Claycamp & Liddy のモデル	168
15・2・6	行動シミュレーションモデル : Amstutz のモデル	170
15・3	反復購買モデル	174

* 目 次

15・3・1 反復購買モデル①：Fourt & Woodlock のモデル	174
15・3・2 反復購買モデル②：Parfitt & Collins のモデル	175
15・3・3 STEAM モデル：Massy のモデル	177
15・4 銘柄選択モデル	178
15・4・1 ベルヌーイ過程モデルとマルコフ過程モデル	178
15・4・2 線型学習モデル：Kuehn のモデル	179
 16 商圏 モ デ ル	182
16・1 グラビティポテンシャルモデル	182
16・1・1 グラビティポтенシャルモデル①：Zipf のモデル	182
16・1・2 グラビティポテンシャルモデル②：Stewart のモ デル	183
16・2 小売引力に関するモデル	183
16・2・1 小売引力に関するモデル①：Reilly のモデル	183
16・2・2 小売引力に関するモデル②：Converse のモデル	184
16・3 等確率線図モデル：Huff のモデル	185
16・4 ミクロの商圈モデル：Gupta & Maier = Rothe のモデル	186
 17 流通機能モデル	189
17・1 流通戦略モデル	189
17・1・1 序 説	189
17・1・2 ウエイト付要因値による戦略モデル	190
17・1・3 最小要因値による戦略モデル：Roberto のモデル	191
17・1・4 シミュレーションによる戦略モデル	192
17・2 立地 モ デ ル	193
17・2・1 連続立地モデル	193
17・2・2 倉庫立地決定モデル：Baumol & Wolfe のモデル	195
17・2・3 混合整数計画モデル：Elson のモデル	197

17・2・4 ヒューリスティックモデル	200
17・3 在庫 モ デ ル	200
17・3・1 需要確定モデル	200
17・3・2 需要不確定モデル	202
17・3・3 定量発注モデル：発注点モデル	202
17・3・4 定期発注モデル	204
17・4 配 送 モ デ ル	205
17・4・1 整数計画モデル：巡回セールスマントロード問題	205
17・4・2 セービングモデル：Clarke & Wright のモデル.....	206
17・4・3 スウィープモデル：Gillet & Miller のモデル.....	209
18 製品計画 モ デ ル.....	212
18・1 新製品計画 モ デ ル	212
18・1・1 序 説	212
18・1・2 インダストリアルダイナミックス型モデル：Roberts のモデル	212
18・1・3 アイディア探求モデル：Pessimier のモデル	214
18・1・4 アイディアスクリーニングモデル：Freimer & Simon のモデル	216
18・1・5 新製品導入決定モデル：SPRINTER モデル	218
18・2 製品廃棄 モ デ ル：Kotler のモデル.....	221
19 広 告 モ デ ル.....	224
19・1 広告予算 モ デ ル	224
19・1・1 序 説	224
19・1・2 広告費対売上反応モデル：Vidale & Wolfe の モデル	224
19・1・3 ADBUDG モデル：Little のモデル	227
19・1・4 分布ラグ型モデル：Palda のモデル	229

xii 目 次

19・1・5 連立方程式型モデル：Bass のモデル	231
19・2 広告表現モデル	232
19・2・1 序 説	232
19・2・2 クリエイティブモデル：Gross のモデル	232
19・2・3 ADFORS モデル：Diamond のモデル	235
19・3 媒体選択モデル	236
19・3・1 序 説	236
19・3・2 MEDIAC モデル：Little & Lodish のモデル	236
19・3・3 AD-ME-SIM モデル：Gensch のモデル	239
19・3・4 ADMOD モデル：Aaker のモデル	241
20 価格モデル	246
20・1 経済学的モデル	246
20・1・1 完全競争下のモデル	246
20・1・2 独占下のモデル	248
20・1・3 寡占下のモデル	250
20・2 実務的モデル	251
20・2・1 コストプラスモデル：フルコストの原則	251
20・2・2 ユーザー評価モデル	252
20・2・3 管理価格モデル：基準価格制	252
参考文献	255
索引	261

I 販 売 管 理

